

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.20 (1988) No.2

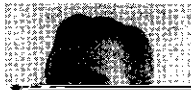
Development of Information Systems at Kawasaki Steel

(Kenzo Ohsugi)

Development of Information Systems at Kawasaki Steel

要旨

川崎製鉄では昭和58年より、全社システム・リフレッシュ5箇年計画のもとに、それまで持っていた情報システムのほとんどを再



た。このようなことから、生産技術面では、プロセスの連続化と高度な技術を要する製品を高品質を保って製造する仕組みへの対応が情報システムに求められた。一方、製品の受注・販売の面からは、顧客のニーズは今まで以上に多品種、小ロットあるいは短納期化

たシステムとする。

- (3) 業界において、先進的かつ優位性を保ちうるシステムとする。
- (4) システム・リフレッシュは5年間で完了させる。

当社が取り組むべきことは、生産工程の効率化とコスト削減、製品の受注・販売の効率化とコスト削減、顧客のニーズに合わせたシステム構築、システムの保守・更新、システムのセキュリティ対策、システムの災害対策、システムのバックアップと復旧、システムの移行と統合、システムの廃止とリサイクル、システムの評価と改善、システムの透明性と説明責任、システムのガバナンスとコンプライアンス、システムの持続可能性と社会貢献、システムの未来志向とイノベーション、システムの柔軟性と拡張性、システムの統合性と連携性、システムの標準化と互換性、システムのセキュリティとプライバシー、システムのリスク管理と危機対応、システムのコミュニケーションとコラボレーション、システムの多文化・多国籍対応、システムのデジタルトランスフォーメーション、システムのデータ駆動型経営、システムのAI・IoT活用、システムのクラウド化とSaaS活用、システムのブロックチェーン活用、システムのメタバース活用、システムのデジタルマーケティング、システムのデジタル人材育成、システムのデジタルリテラシー向上、システムのデジタルインクルージョン、システムのデジタルガバナンス、システムのデジタルイノベーション、システムのデジタルエコシステム構築、システムのデジタル競争優位性創出、システムのデジタル社会貢献、システムのデジタル未来創造

適のシステムの集合から、システムをより総合・一貫化して、全体最適のシステムに作り変えることである。このようなシステムの企

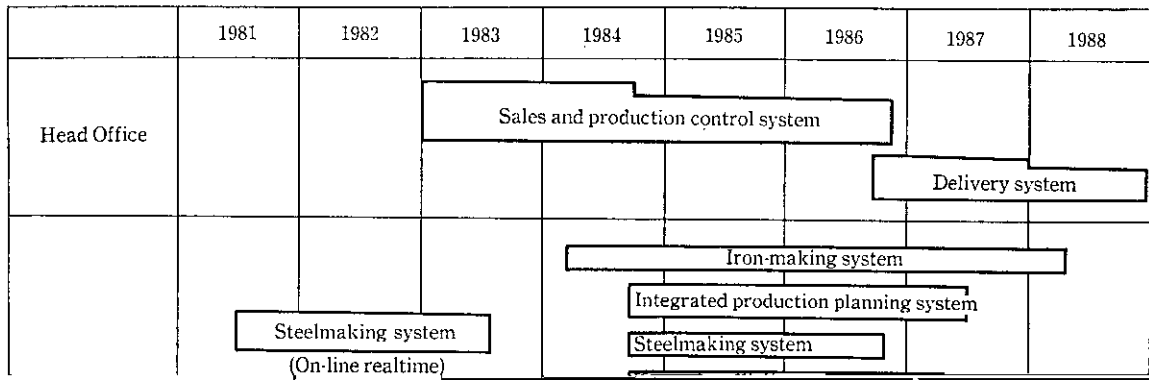
製品であるシームレス生産管理システムを再構築した。
(2) 経営管理システム

め、その基本構想を検討する組織として、「販売・生産システム委

労働などの老朽化したシステムから、順次機能の大幅な改善を

員会（本社）」や「生産システム基本問題検討班（千葉）」などの組織を編成して、システム化のドライビング・フォースとした。

含むリフレッシュを行った。なお利益計画や外注管理など全社的の広がりを持つシステムについては、全社のメンバーにトスプ



		1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988
Data system									

Profit planning system

Personnel data

コンピュータとビジネスコンピュータとの機能分担を、システム全体の信頼性、保全性などの観点も含めて最適化した。そして

画に対していくらかの変更はあったものの、昭和62年度をもってひとまず完了した。5年間という限られた期間の中で、これだけの

と一貫的に統合した。

に整合性をとった実行計画を作成し、その実行計画の推進に必要な